

報告事項

1、平成 25 年度 第 2 回福祉サービス運営委員会報告

平成 26 年 3 月 17 日

大分県福祉会本部会議室

別府厚生館（13 世帯 36 名）

1、要望・苦情

○利用者より

- ・子どもが棒切れを持って遊ぶのは危険～子どもたちに遊び方の注意

2、ヒヤリハット

- ・泥団子のを投げて遊び隣家の壁を汚す・道路に飛び出す・はさみでベッドを傷つけ使用不能・LINE に不適切な書き込み・ブランコの立ちこぎで落下～その都度指導、携帯電話の管理

＊思春期を迎える女子児童に性教育・生活指導を検討

うえの園（20 名） 清明あけぼの学園（9 名）

1、要望・苦情

○利用者より

- ・言葉遣いをやさしく ・パズドラゲームがしたい

2、ヒヤリハット

- ・転倒し痙攣発作～救急車で病院搬送、自傷行為の傷があったために、救急隊員が警察に通報

事件性の調査があり、保護者への確認及び生活記録等から事件性なしとの判断。

- ・利用者間のトラブル～職員配置の改善 ・服薬ミス ～処方変更の伝達ミス、調剤薬局の一本化
- ・ヘアドライヤーの断線による火傷～保管方法の改善
- ・他の児童支援のために手を離れた隙に人ごみにまぎれる～職員配置の再検討

森の木（40 名）

1、相談、要望、苦情

○聞き耳頭巾相談(23 件)

- ・指導員が胸倉をつかんだ不適切な支援の関しての聞き取り調査結果（相談員より）
～聞き取りの結果、児童生徒の特段の不満はない。また当該生徒も、その時は彼女からもらったピアスが切れたので頭にきただけで、日常の指導には不満もない。
弁当のおかずを冷凍食品にしてほしいとの要望が大師高校生の一人からあった。

○保護者から

- ・親権者（祖母）から、実母の電話には施設では対応しないでほしい。対応はこちらです。

2、ヒヤリハット（全員回覧による周知徹底とシェル分析）

3、その他

- ・クリスマスプレゼント購入の際、職員のポイントカード使用～すぐに払い戻し、ポイントの変換を行うとともに、公金の取り扱いについて嚴重注意
- ・キラリグッド賞～大分県監査でも評価される。

滝尾保育園（146 名）

1、要望、苦情

○保護者より

- ・保育室の床がでこぼこ・・・じゅうたんを敷いて対応、の張替え検討
- ・保育士との意見のすれ違い、登園拒否・・・両親と面談、話し合い

○近隣より

- ・暖かくなり園の西側側溝より蚊が発生～市の衛生課に連絡し薬剤散布

2、ヒヤリハット シェル分析を行いリスクへの対応・評価を実施

- ・遊戯の上から靴を飛ばし、迎えの祖父の眼鏡に当り、眼鏡に傷をつけ職員の管理体制に不備があると指摘
- ・マット遊び中ロッカーの角に後頭部を怪我病院受診
- ・保育室で玩具に躓き転倒し怪我し、通院

3、その他

- ・園内感染症発生状況ボードの設置

明野しいのみ保育園（133名）

1、要望、苦情

○近隣より

- ・発表会用に借用した駐車場が積雪のため泥濘、周辺道路に泥が飛散し近隣より業者に苦情・・・職員で清掃

2、ヒヤリハット シェル分析（報告書→シェル分析→委員会での分析→回覧）

- ・三輪車で転倒 ・雲梯から手を滑らせ落下・・・遊び方の指導
- ・保育室で転倒し骨折、入院手術 ・自宅で熱性痙攣（3名）・・・熱性痙攣園児への対応を保護者へ配布

3、その他

- ・積雪のために、保護者の迎えが最終 21 時 40 分過ぎになる・・・保護者への緊急連絡体制の整備
- ・行事の際の駐車場の確保

協議から

利用者代表委員から

- ・5歳児のカリキュラムは充実しており、小学校に進学しても子どもたちのためになっている。
- ・子どもに対する人権学習を行ってほしい。子ども同士のためになる。
- ・感染症ボードは情報が入るのでわかりやすい。・新しく設置した保健室の利用状況は～0歳児 1歳児が何度か利用した。以上児は部屋で過ごしたがる。
- ・インフルエンザのこともあり、この時期は施設を訪問しがたい。・先日のような深夜の地震は～物が倒れるなどの被害はなかった。子どもも寝たままの子が多かった。
- ・地域行事に積極的に参加している。

第三者委員から

・リスク管理、コンプライアンの両面によく取り組んでいる。しかしそのために職員の負担が増加したり、利用者の行動が制限されるようなことになっては本末転倒である。法人として、施設として「どうあるべきか」、職員一人ひとりがあるべき姿に向かって取り組んでいく中で理念をしっかりと持ち、誇りと自信をつけていくことが大切である。

・いつも子どもたちのために大変な運営をされていることを知っているだけに、特に地域小規模施設の若い職員は大変ではないか。職員配置を考えることも必要ではないか。

～中堅職員少ない中で、ユニットとの関係もあり全体のバランスを見ながら配置している。また本体施設職員によるサポート体制も確立している。

最後に会長より「各施設の運営にご理解と激励の言葉を頂き感謝していること、本法人が目指すべき姿を明確にし、職員一人ひとりが何のためにやっているのか自覚を持ちながら日々取り組んでいき、法人全体としてレベルアップしていきたい。また、法人の人事交流のスタンスとして①キャリアアップ、②個々人のワークバランスという視点から実施している。年度末までの任期は残っていますが、これまでの運営委員としてのご尽力に感謝申し上げます。今後とも法人に対する暖かく厳しい眼差しでご支援をお願いしたい。」との言葉で終了。